

2019年度 決算説明資料

 **ipet** アイペット損害保険株式会社（証券コード：7323）

2020年5月11日



決算ハイライト

当社は、日本の会計基準(J-GAAP)の他に、経営管理指標(Non-GAAP)にて経営成績の開示を行っております。

当社は、Non-GAAP指標を重要な指標と考えております。詳細はAPPENDIXおよび決算短信をご参照ください。

1. 保険契約の順調な積み上がりにより、トップラインは堅調に伸展

経常収益：+22.7%

14,941百万円 ▶ 18,334百万円

2. 新規契約の好調による費用増加を、吸収しつつ増益を維持

調整後経常利益：+13.9%

929百万円 ▶ 1,058百万円

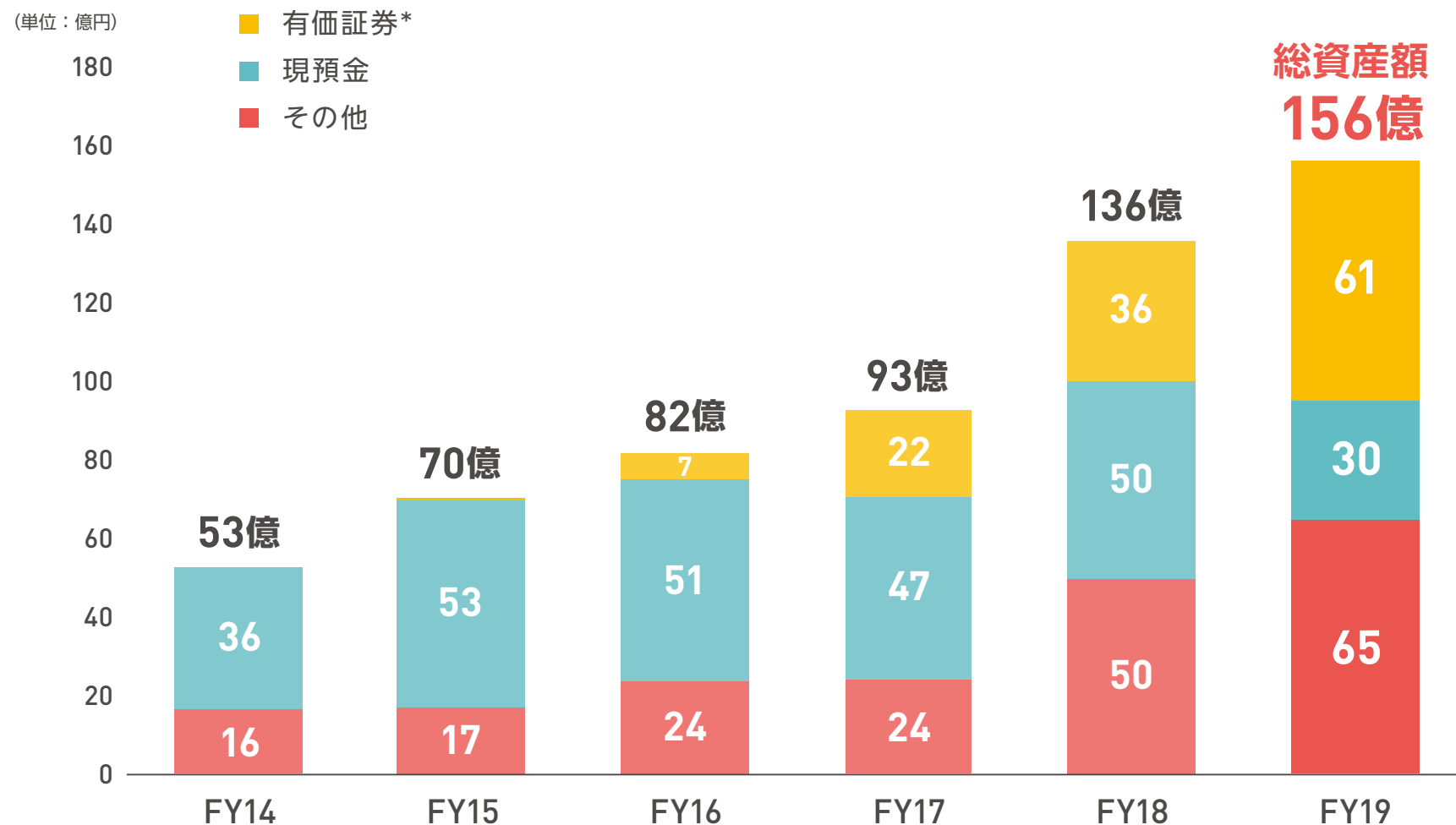
調整後当期純利益(特殊要因*を除く)：+8.7%

668百万円* ▶ 726百万円

* 特殊要因（和解金の受領ならびに税額控除の適用）による利益の押し上げ効果 147百万円を含む調整後当期純利益は 815百万円

引き続き、「増収増益」基調をキープ

3. 着実に総資産を積み上げており、資産運用収益の安定化にも寄与



* 有価証券には「金銭の信託」を含んでいる。

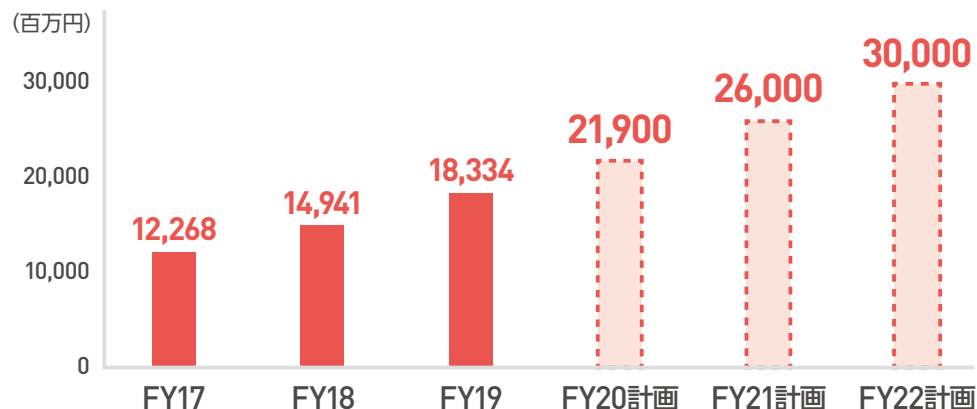
経常収益と調整後経常利益の増収・増益を今後も見込む

※本資料と同日に公表している中期経営計画(FY20~FY22)も合わせてご参照ください。

※以下の数値目標は、新型コロナウイルスの影響を一定考慮していますが、長期化した場合には、変更される可能性があります。

経常収益

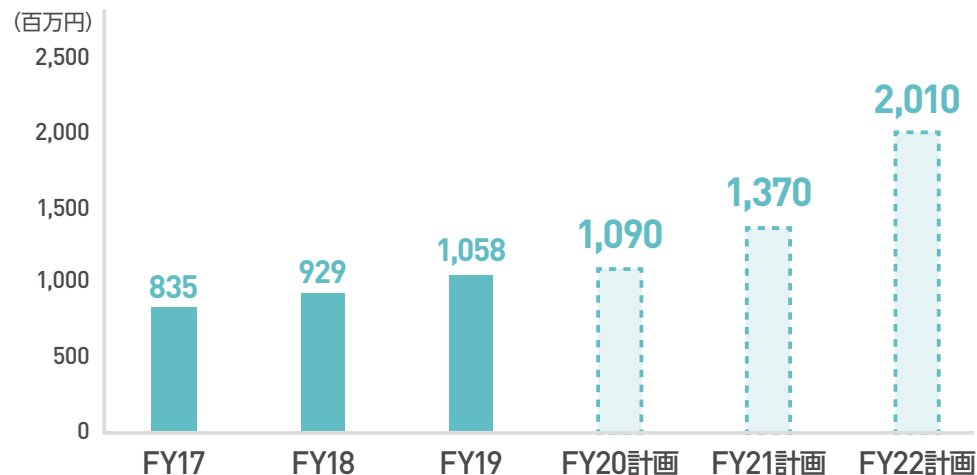
好調な契約獲得と高水準の継続率を背景に、FY20においては219億円、FY22においては300億円を見込む。



調整後経常利益

新規契約獲得のシェアアップに注力しているためトップラインが大きく伸展しており、保険の収益構造上、短期的には新契約費増に伴い利益を一定程度圧迫している。

事業効率化推進により増益を継続する方針から、FY20においては10.9億円、FY22においては20.1億円を見込む。



既存チャネル … 順調に拡大し、新契約が大きく伸展

ペットショップチャネル

▶ 業界最多15か所の営業拠点で販売強化に注力
新たに大手ペットショップと提携

インターネットチャネル

▶ きめ細やかにCRM施策を運用
適切な広告投下により効率良く契約を獲得

新規チャネル … 成長の布石となる業務提携を実現

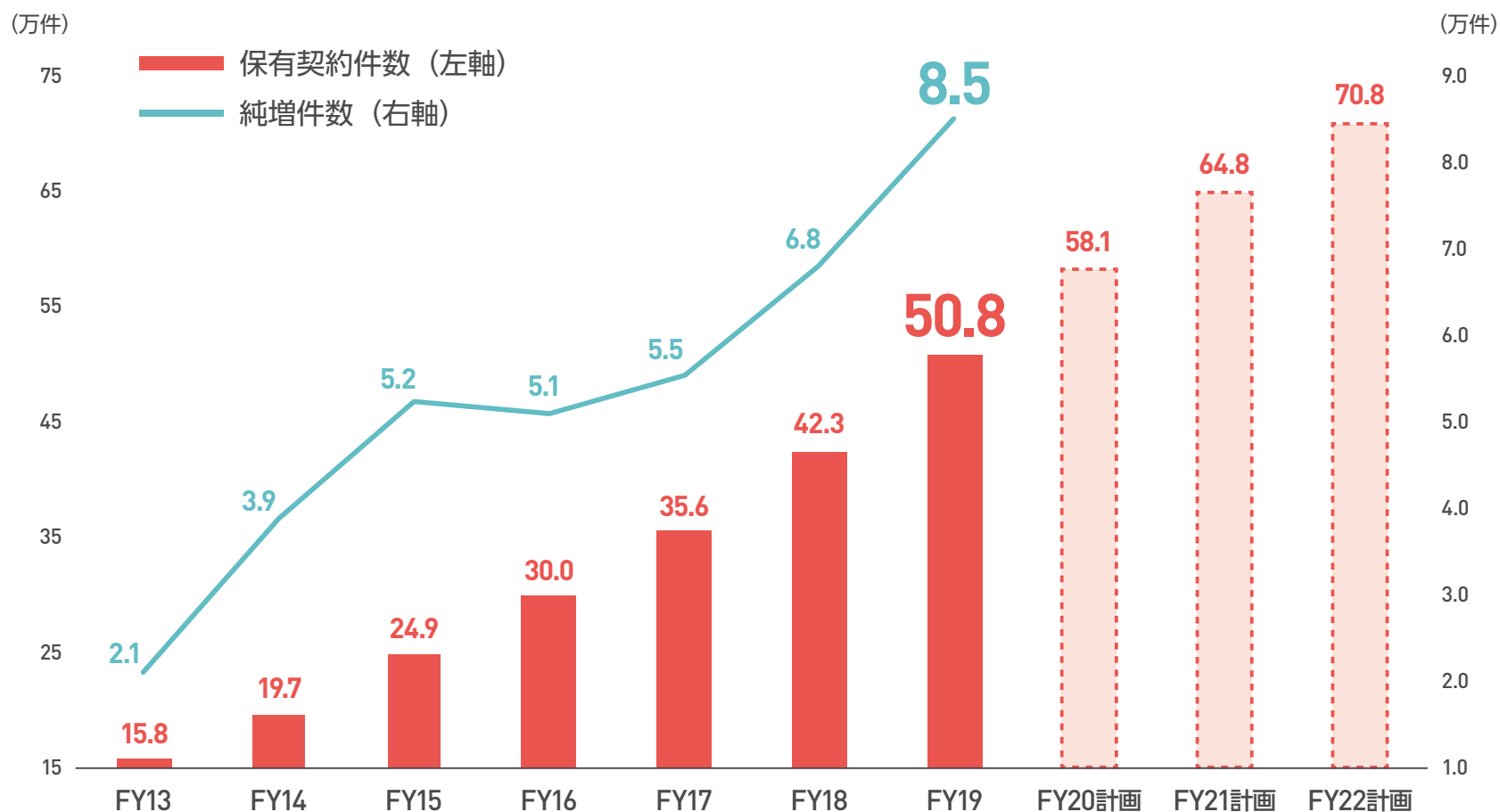
第一生命チャネル

▶ 第一生命保険グループとの協業が順調にスタート
第一生命のWebサイトや営業員による当社商品の販売

FY19も新規契約件数は順調に増加

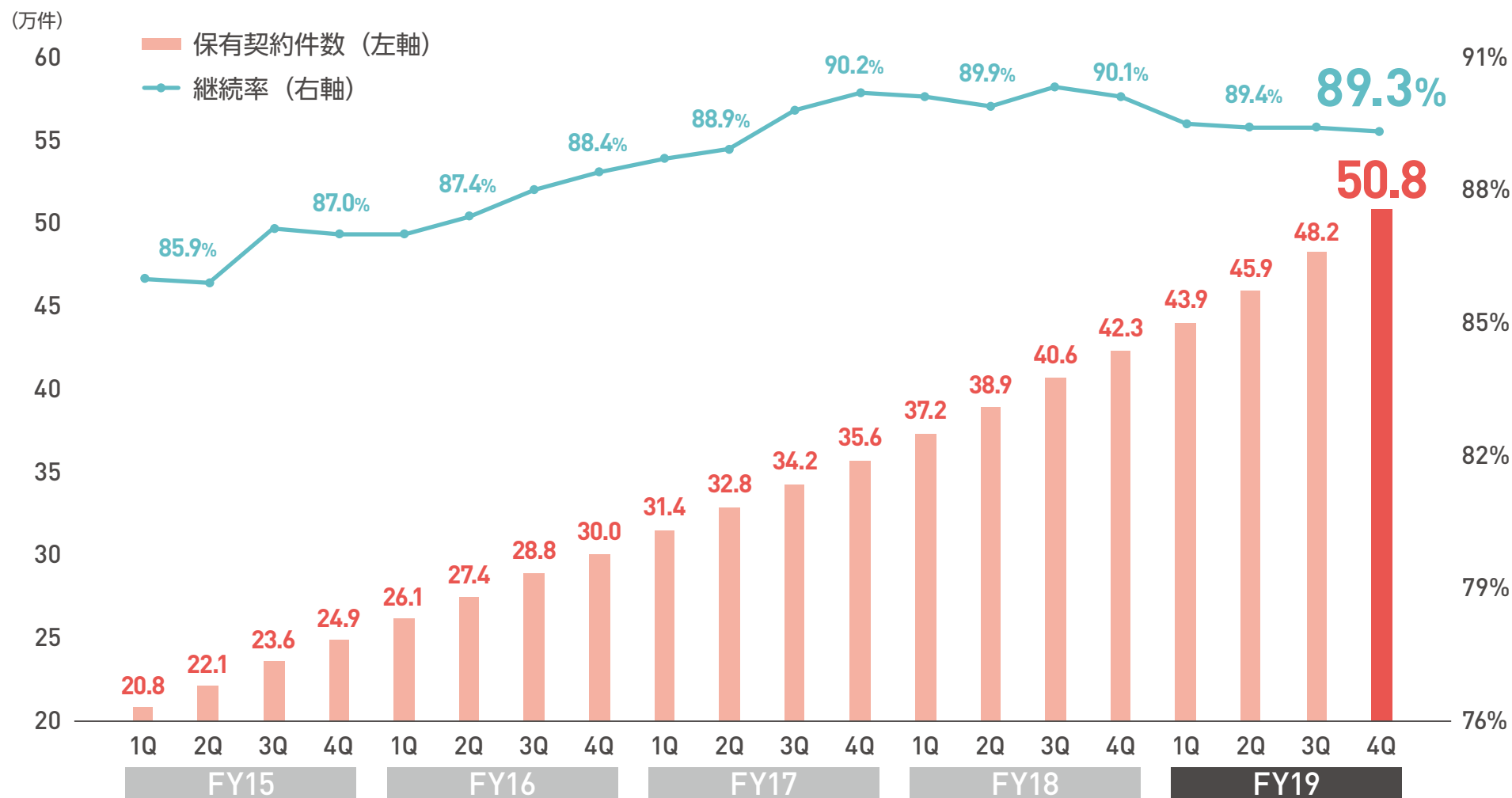
⇒保有契約件数は**50万件**の大台を突破（2020年3月末時点 508,225件）

⇒純増件数は過去最高の**8.5万件**となり、ペット保険業界で**2期連続No.1***を達成



* 当社推計

好調な新規契約件数とトップクラスの継続率が、 純増件数の業界No.1を実現



事業を通じた環境負荷の低減(E)、ペットと共に健康で幸せに生きられる社会への貢献(S)、ガバナンスの強化による信頼性向上(G)等の取組みを、更なる成長に活かします。

Environment

ビジネスプロセスの変革や環境に配慮した取組み

- ・デジタルライゼーション推進によるペーパーレス化
 - デジタルマーケティング
 - ご契約者さま専用「マイページ」の活用 等
- ・営業車へのエコカーの活用
- ・共生環境向上、環境美化への啓蒙活動
 - しつけに関する情報発信、啓蒙活動
 - オリジナルウンチ処理袋の配布

環境負荷の低減へ

Social

ペット保険の普及拡大やペットに関わる社会貢献

- ・ペット保険による飼い主さまの支援
- ・持株会社化によるペットに関わる社会的課題への取組み
- ・青森県との動物愛護に関する連携協定
- ・各種情報発信、啓蒙活動
- ・動物福祉に関する活動等への寄付、支援
- ・従業員の働きがい
 - ペット休暇、ペット忌引き制度等
- ・若手、女性の登用等

ペットと健康で幸せに暮らせる社会へ

Governance

ガバナンスの強化

- ・取締役会の監督機能強化、透明性の向上
 - 監査等委員会設置会社への移行
 - 任意の指名・報酬諮問委員会の設置
- ・保険金不正請求防止への取組み
- ・コンプライアンス・リスク管理の一層の強化

より信頼されるペット保険会社へ

ペット保険事業の推進、進化により、ペットと人間が共に健康で幸せに生きていけるような社会を目指し、「ペットと人のSDGs」に取り組んでまいります。

重点目標	具体的な取組み(例)	対応するSDGsの目標
<p>ペットと共に健康に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペット保険の提供 ・ペットの病気やケガに関する情報発信、啓蒙活動 ・「うちの子 HAPPY マラソン」への特別協賛 	
<p>ペットと共に安全に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットの防災に関する情報発信、啓蒙活動 ・災害救助犬の育成支援 	
<p>ペットを飼っている人も飼っていない人も幸せに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しつけに関する情報発信、啓蒙活動 ・マナー啓蒙活動の実施 	
<p>全ての命に愛を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県との動物愛護に関する連携協定 ・かるた、カレンダーの写真投稿企画での寄付活動 ・「ペットのおうち*」への「ノミ・マダニ駆除薬」支援 ・終生飼養に関する情報発信、啓蒙活動 	
<p>保険会社としての信頼性の更なる向上に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さま主義の推進 ・ガバナンス強化 ・保険金不正請求防止に向けた取組み ・コンプライアンス・リスク管理の更なる強化 ・デジタル化の推進によるペーパーレス化 ・営業車にエコカーを活用 	
<p>「うちの子」である従業員の健やかな生活と成長に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペット休暇、ペット忌引きの導入 ・女性の活躍推進 ・ワークライフバランスの促進 ・ダイバーシティの推進 ・防災対策強化 ・オンラインでの従業員教育 	

*株式会社 Easy Communications が運営する国内最大級のペット里親募集サイト



業績の推移について

収益指標 ※未経過保険料方式 (Non-GAAP)

(単位：百万円)	FY18	FY19	前期比
経常収益	14,941	18,334	+22.7%
調整後経常利益	929	1,058	+13.9%
調整後当期純利益	815*	726	▲11.0%

* FY18 の特殊要因（和解金の受領ならびに税額控除の適用）による利益押し上げ効果 +147 百万円を含む

コンバインド・レシオ

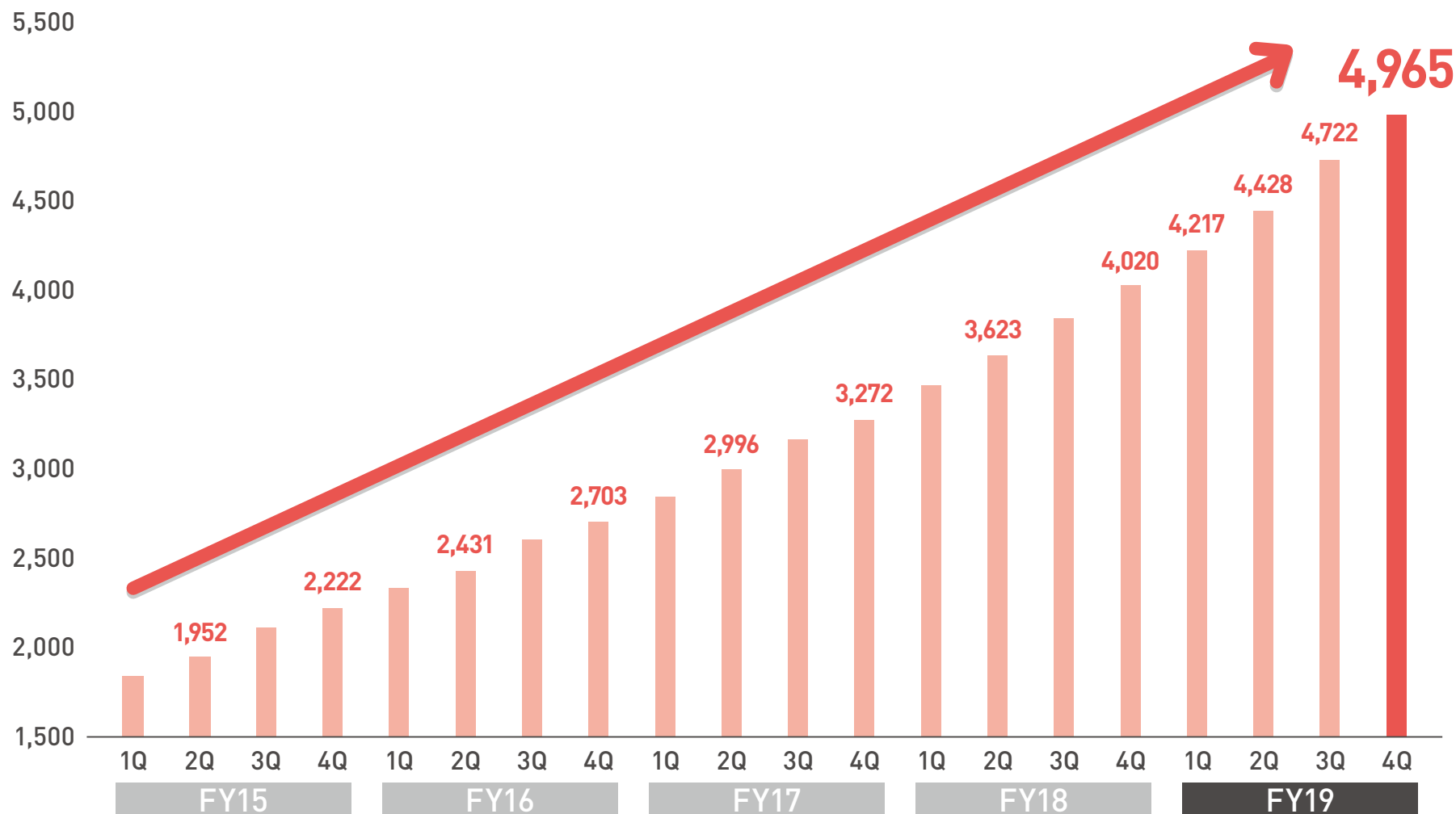
正味保険料ベース 88.1% (損害率44.5%、事業費率43.6%)
 既経過保険料ベース 94.5% (損害率48.7%、事業費率45.8%)

安全性指標

ソルベンシー・マージン比率 347.3% (前年度末比 ▲34.1%)

事業規模の高成長は維持しつつも、 高水準の増収率を達成

(単位：百万円)

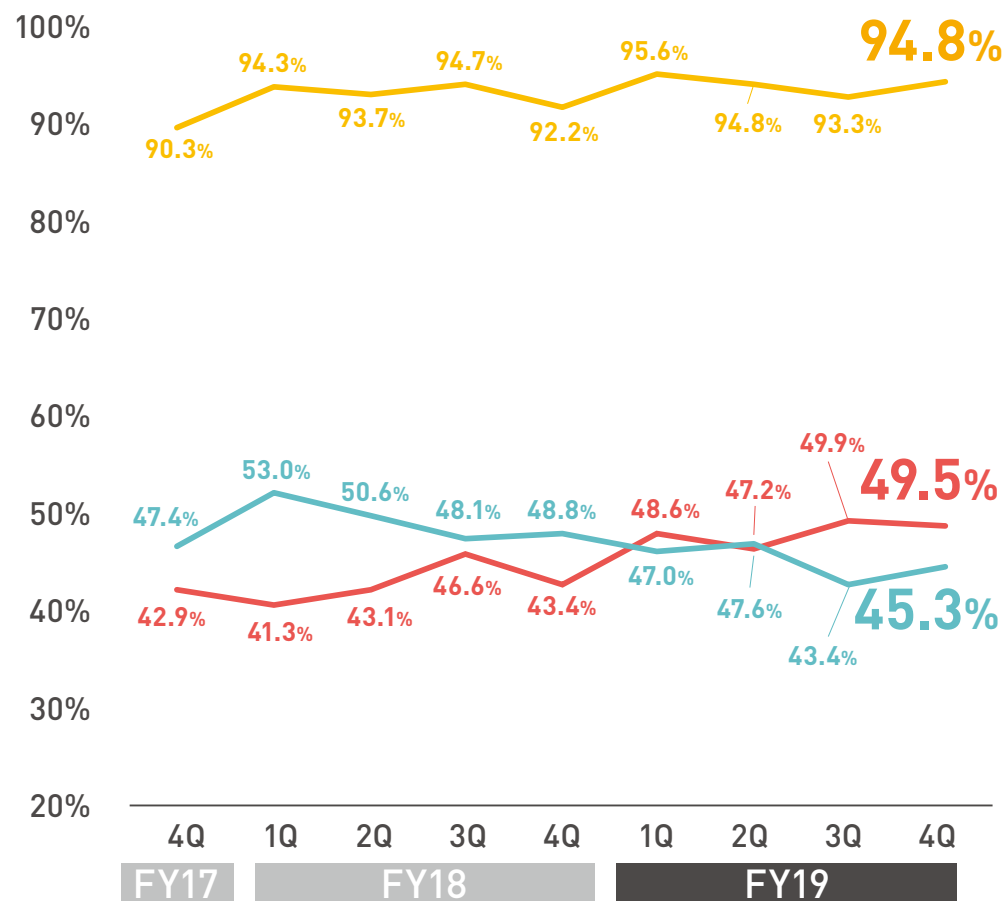
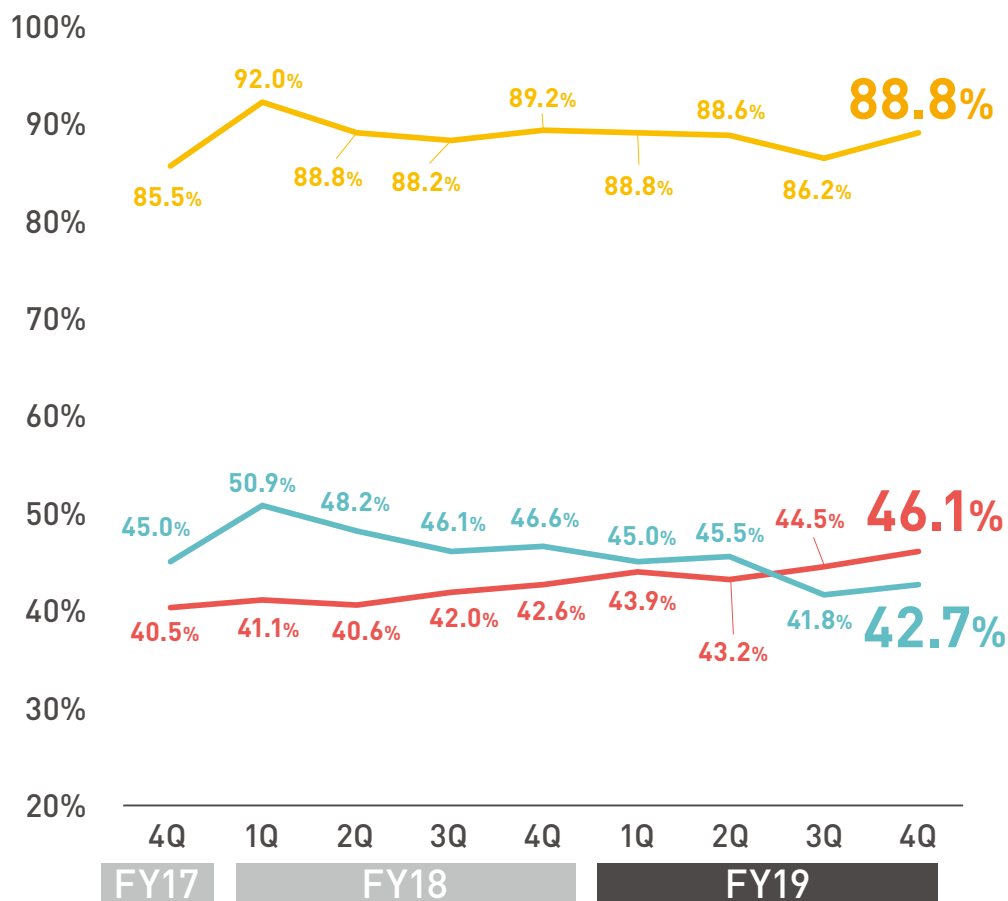


正味ベース

既経過ベース

— 損害率 — 事業比率 — コンバインド・レシオ

— 損害率 — 事業比率 — コンバインド・レシオ



Non-GAAP ベースの業績



(単位: 百万円)	FY18	FY19	前期比
経常収益	14,941	18,334	+22.7%
保険引受収益	14,831	18,115	+22.1%
資産運用収益	60	173	+187.2%
その他経常収益	49	45	▲ 8.2%
経常費用	14,487	17,856	+23.3%
保険引受費用	9,243	12,172	+31.7%
資産運用費用	15	55	+248.2%
営業費及び一般管理費	5,224	5,579	+6.8%
その他経常費用	4	49	+979.2%
経常利益	453	477	+5.3%
特別利益	170	—	—
特別損失	3	6	+72.8%
税引前当期純利益	619	471	▲ 24.0%
法人税等	▲ 343	162	—
当期純利益	963	308	▲ 68.0%

主な勘定科目の増減理由

保有契約件数の拡大に伴い順調に増加

- ・利息配当金収入 +64百万円
- ・有価証券売却益 +40百万円
- ・金銭の信託運用益 + 7百万円

- ・正味支払保険金
7,443百万円 (前期比+28.6%)
- ・諸手数料及び集金費
2,320百万円 (前期比+39.9%)
- ・責任準備金繰入額
1,458百万円 (前期比+28.6%)

前期は、システム開発に関して委託先から受領した和解金 170 百万円を計上

資産運用の拡大に伴い、
価格変動準備金繰入が増加

前期は税効果会計の区分変更により、
異常危険準備金に対する繰延税金資産を計上

J-GAAP ベースの業績

(単位：百万円)	FY18	FY19	前期比
経常収益	14,941	18,334	+22.7%
保険引受収益	14,831	18,115	+22.1%
資産運用収益	60	173	+187.2%
その他経常収益	49	45	▲ 8.2%
経常費用	14,643	17,920	+22.4%
保険引受費用	9,398	12,237	+30.2%
資産運用費用	15	55	+248.2%
営業費及び一般管理費	5,224	5,579	+6.8%
その他経常費用	4	49	+979.2%
経常利益	297	413	+38.7%
特別利益	170	—	—
特別損失	3	6	+72.8%
税引前当期純利益	464	406	▲ 12.4%
法人税等	▲ 387	144	—
当期純利益	851	261	▲ 69.2%

(単位：百万円)	FY18	FY19	前期比
資産合計	13,574	15,599	+14.9%
現金及び預貯金	5,035	3,050	▲ 39.4%
有価証券等	3,686	6,203	+68.3%
繰延税金資産	834	1,017	+21.9%
その他資産	4,017	5,327	+32.6%
負債合計	8,237	10,018	+21.6%
保険契約準備金	7,019	8,869	+26.4%
うち支払準備金	963	1,290	+33.9%
うち責任準備金	6,056	7,579	+25.1%
その他負債	1,217	1,148	▲ 5.7%
純資産	5,336	5,580	+4.6%
資本金	4,097	4,118	+0.5%

主な勘定科目の増減理由

余剰資金を資産運用に回しているため減少

- ・金銭の信託
1,013百万円 (+1,013百万円)
- ・有価証券
5,067百万円 (+1,500百万円)

- ・ソフトウェア仮勘定
1,982百万円 (+730百万円)
- ・未収保険料・未収金
2,189百万円 (+394百万円)

- ・初年度収支残
4,775百万円 (+942百万円)
- ・異常危険準備金
2,803百万円 (+580百万円)

- ・未払法人税等の減少
▲183百万円
- ・借入金の増加
+125百万円



APPENDIX

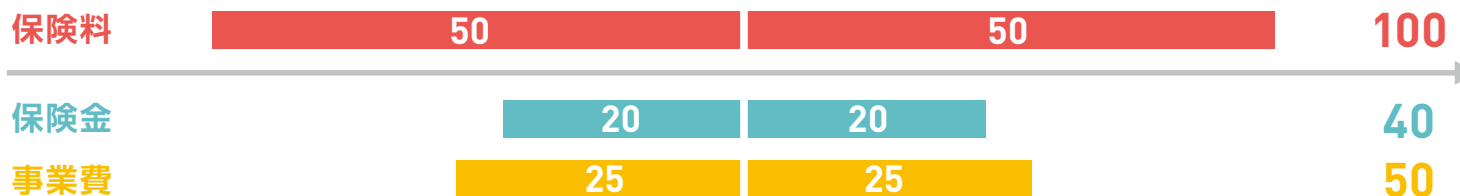


- ・損害保険会社は、普通責任準備金として未経過保険料残高と初年度収支残高の**いずれか大きい方**を負債計上する必要がある（保険業法施行規則第70条1項1号）
- ・当社は、初年度収支残高が未経過保険料残高を上回っているため、**制度会計上初年度収支残方式**によるが、経営管理上は、**発生主義**に即した**未経過保険料方式**を使用

初年度収支残方式と未経過保険料方式

[前提] ●期中に一時払で100の入金、うち×1年度末での未経過保険料50 ●保険金、事業費はそれぞれ下図の通り

×1年度



初年度収支残方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲ 45
準備金	55	▲ 55
利益	0	10

初年度の利益は0

未経過保険料方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲ 45
準備金	50	▲ 50
利益	5	5

発生主義による利益

(単位：百万円)

		FY18	FY19	FY20予想
Non-GAAP	A) 調整後経常利益 (=B+C)	929	1,058	1,090
	B) 経常利益	453	477	400
	C) 異常危険準備金影響額	475	580	690

- ・当社は、経営者が意思決定する際に使用する社内指標 (Non-GAAP: 未経過保険料方式) と、日本基準 (J-GAAP: 初年度収支残方式) に基づく指標の双方で経営成績を開示*
- ・当社は、**調整後経常利益** (=未経過保険料方式の経常利益±異常危険準備金**影響額) を経営実態を適切に表す経営管理用の利益指標として使用
- ・異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、事業年度ごとに収入保険料に3.2%を乗じた金額を責任準備金として負債計上する必要がある** (保険業法施行規則第70条1項2号)
- ・今後も、**業績予想は「Non-GAAP: 未経過保険料方式」のみ**で開示

* 上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社は当社以外は存在していない

** 当社の損害率が大阪省告示第232号第2条の別表で記載されている基準損害率50%を下回るため

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合でも、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

本資料および当社IRに関するお問合せ先

アイペット損害保険(株) 財務経理部

E-mail: IR@ipet-ins.com

♥
ipet